



佐久市  
「まち・ひと・しごと創生」に関する  
アンケート調査レポート  
-概要版-

平成27年9月25日

## (1) 市民アンケート

- 調査名：「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査
- 調査の目的：佐久市民の「結婚・出産・子育て」、「仕事」、「移住・定住」に関する意識や課題を把握するために実施した
- 調査対象者：佐久市在住の満16～39歳男女（住民基本台帳から無作為に抽出）
- 調査方法：郵送調査
- 実施期間：平成27年6月18日（木）～7月6日（月）
- 発送数：1,000票
- 回収数：435票（うち無効3票）
- 有効回収数：432票（有効回収率 43.2%）

## (2) 転出者アンケート

- 調査名：「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査 転出者アンケート
- 調査の目的：佐久市から他市町村へ転出した人たちの「仕事」、「移住・定住」に関する意識や課題を把握するために実施した
- 調査対象者：2年以内に佐久市から転出した満18歳以上男女（住民基本台帳から無作為に抽出）
- 調査方法：郵送調査
- 実施期間：平成27年6月18日（木）～7月6日（月）
- 発送数：1,000票
- 回収数：343票（うち無効1票）
- 有効回収数：342票（有効回収率34.2%）

## (3) 企業アンケート

- 調査名：「まち・ひと・しごと創生」に関する企業調査
- 調査の目的：佐久市内にある事業所における「産業振興」「雇用創出」「地域の発展」等に関する意識や課題を把握するために実施した
- 調査対象者：佐久市内事業所
- 調査方法：郵送調査
- 実施期間：平成27年7月17日（金）～8月3日（月）
- 発送数：100票
- 回収数：62票（うち無効0票）
- 有効回収数：62票（有効回収率 62.0%）

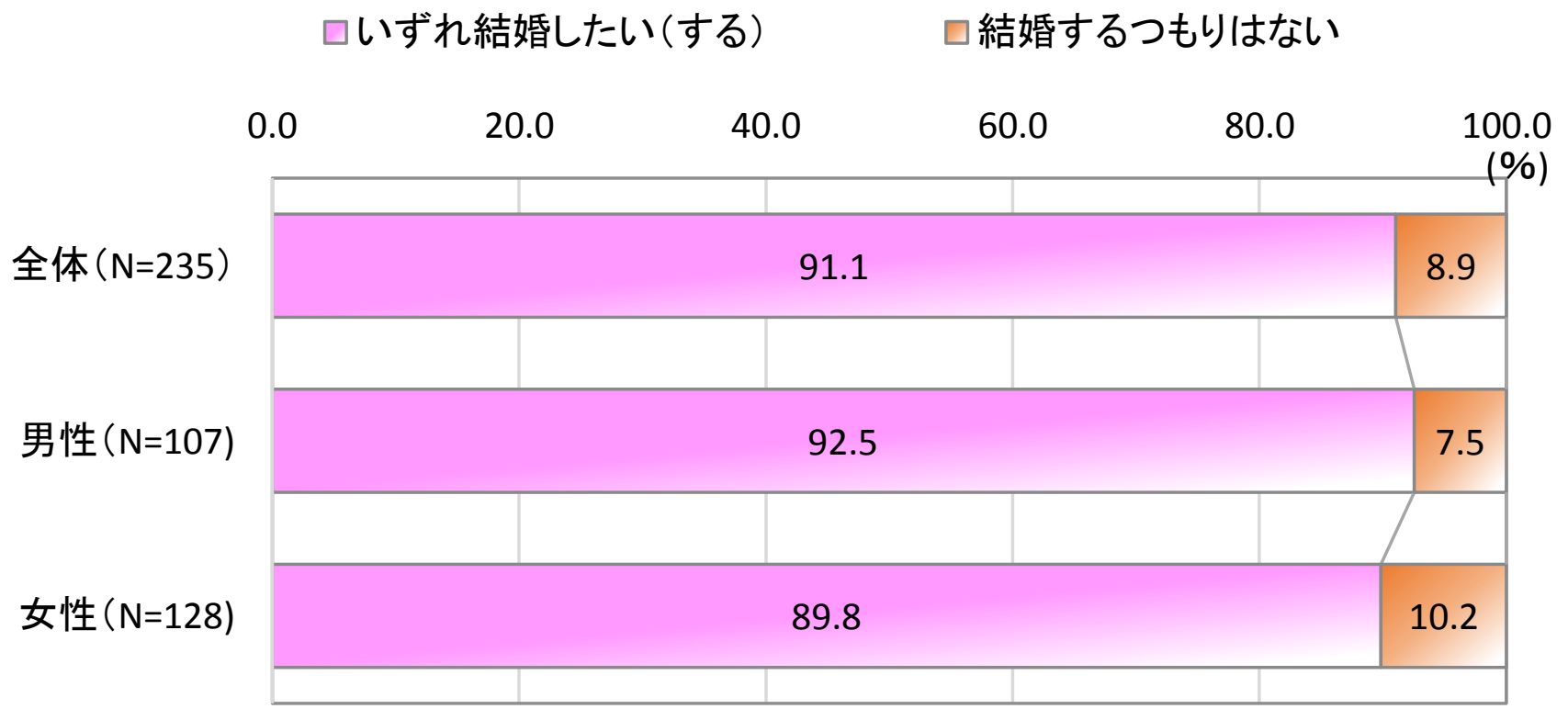
## (4) 高校、大学・専門学校アンケート

- 調査名：（高校向け）高校生の進学や地元就職の傾向に関する調査  
（大学・専門学校向け）大学・専門学校生の就職の傾向に関する調査
- 調査の目的：佐久市内の高校生や大学・専門学校生の進路及び就職の傾向について把握するために実施した
- 調査対象者：佐久市内の高校、大学・専門学校
- 調査方法：郵送調査
- 実施期間：平成27年7月9日（木）～7月23日（木）
- 発送数：12票（高校7校、大学2校、専門学校3校）
- 回収数：12票（うち無効0票）
- 有効回収数：12票（有効回収率 100%）

※各調査の集計処理において、小数点第2位を四捨五入しているため、合計の数値が100%にならない場合がある。  
※設問によって無回答が存在するため、回答の合計値は必ずしも一致しない。

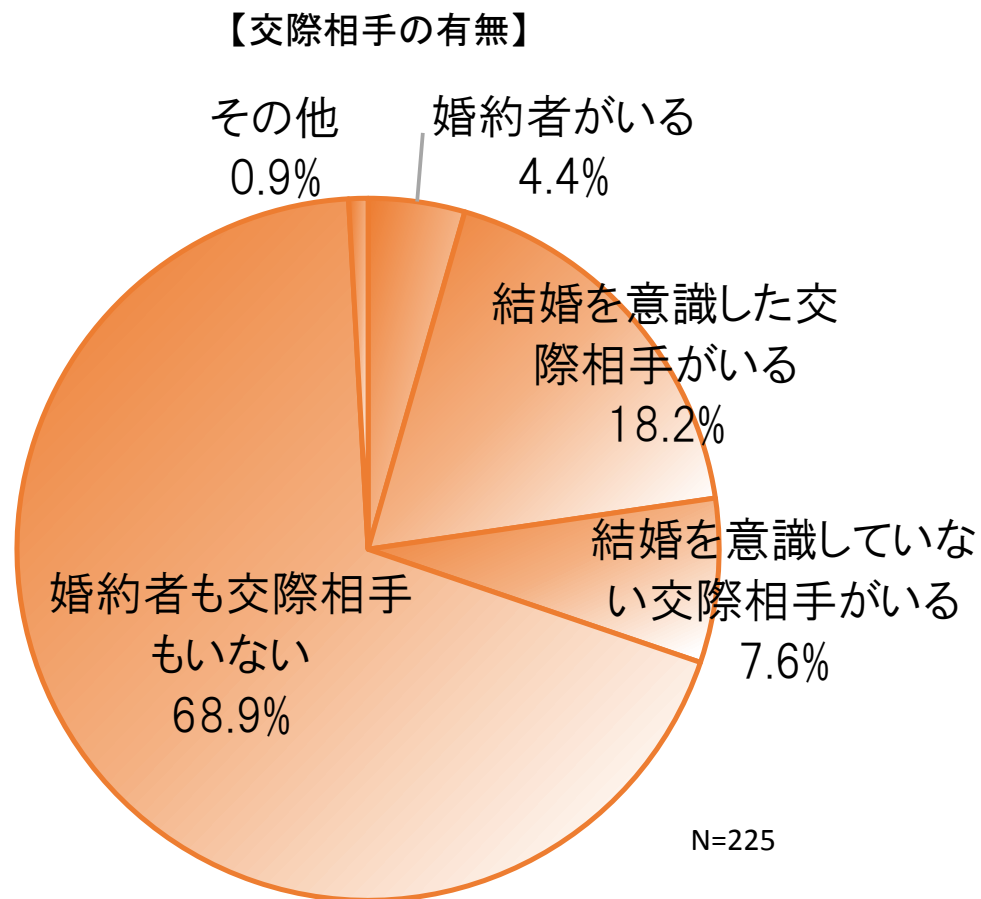
● 9割の独身者が結婚したいと思っている

【独身者における将来の結婚意向】



結婚における現状と課題 ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女]

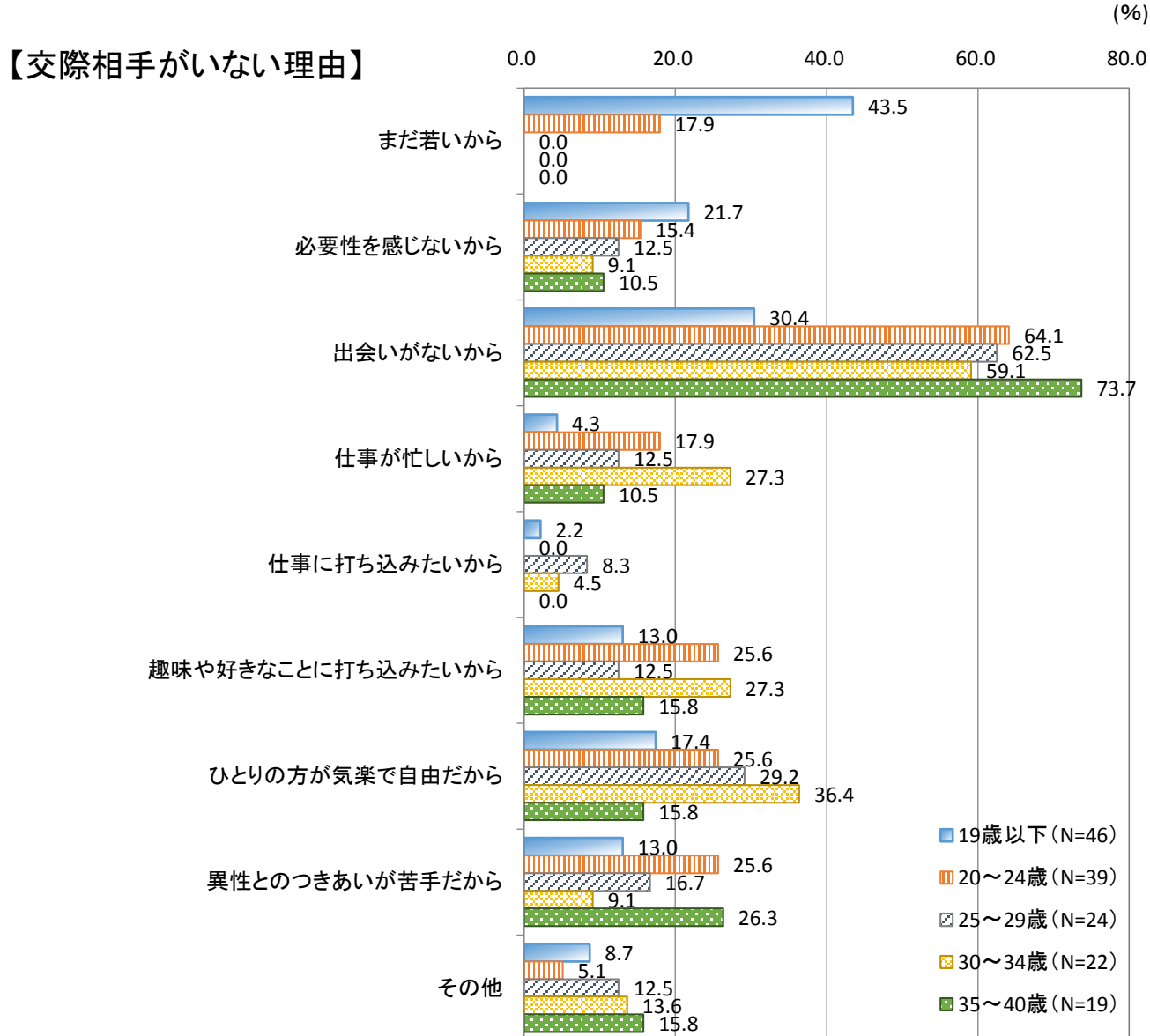
## ●交際相手がいない人が68.9%



男女ともに独身者の9割がいずれ結婚したいと考えているにもかかわらず、**交際相手がいない人が7割近くも存在する。**

## 結婚における現状と課題 ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女]

### ●交際相手がいない理由は「出会いがない」

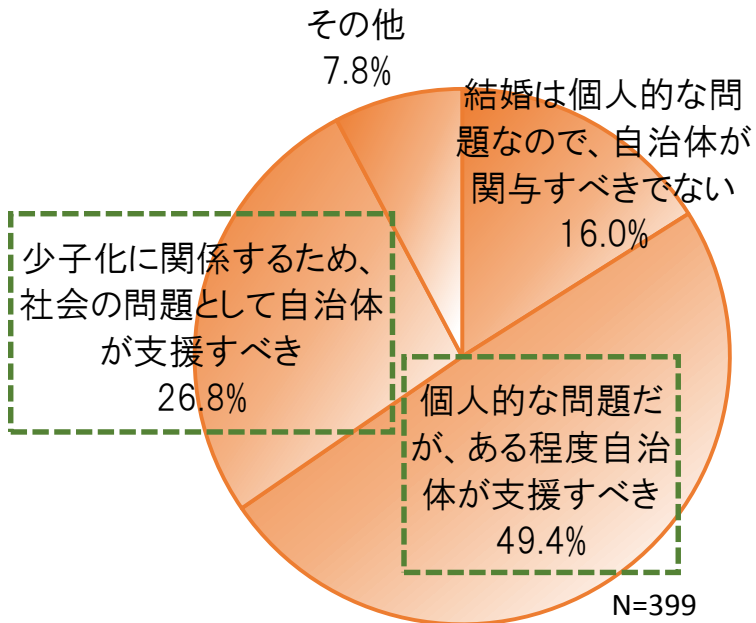


交際相手がいない理由を年齢別にみたところ、特に20代以降になると「出会いのなさ」をあげる人が多い。

## 結婚における現状と課題 ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女]

## ●約76%の市民が自治体による結婚支援が必要と考えている

【自治体による婚活支援についての考え方】

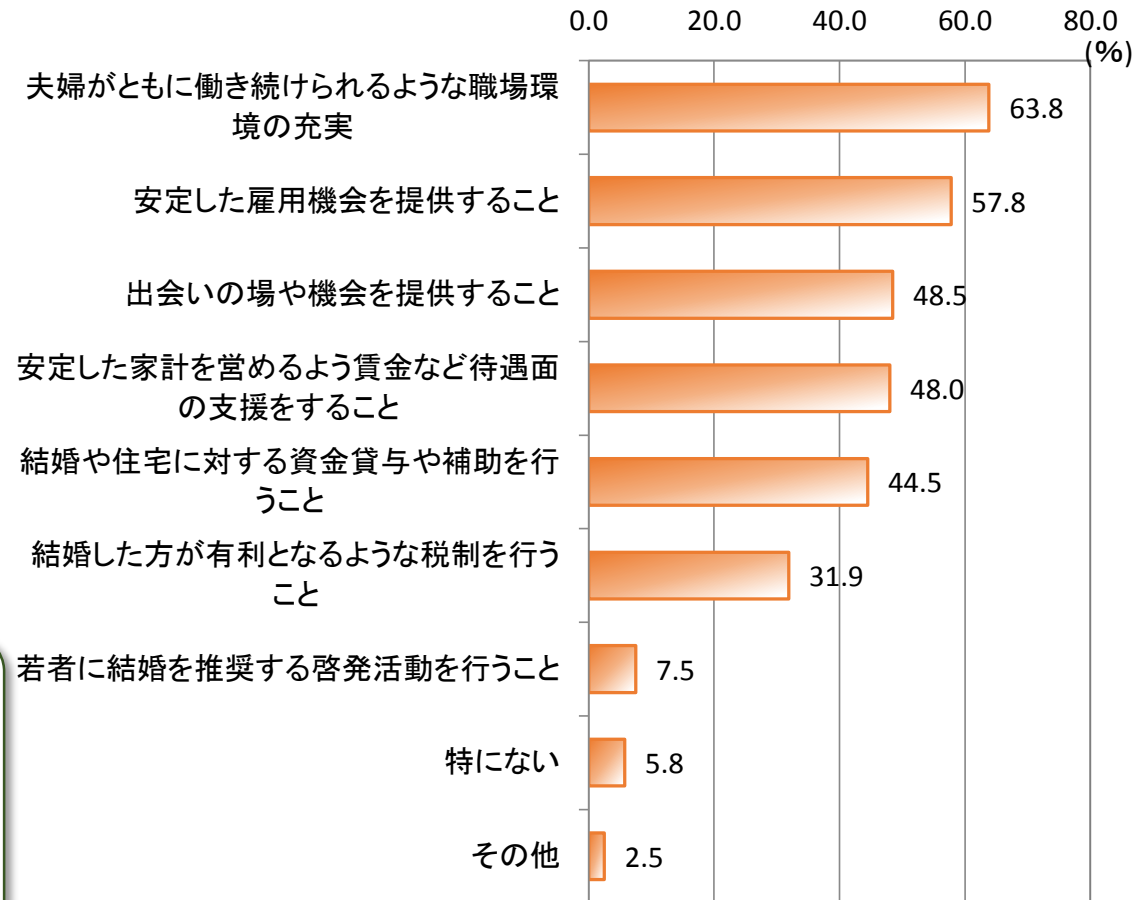


**自治体が結婚を支援すべき支援を望む声は約76%と高い。**

具体的な支援策として「**夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実**」「**安定した雇用機会の提供**」などが多くの人に望まれている。

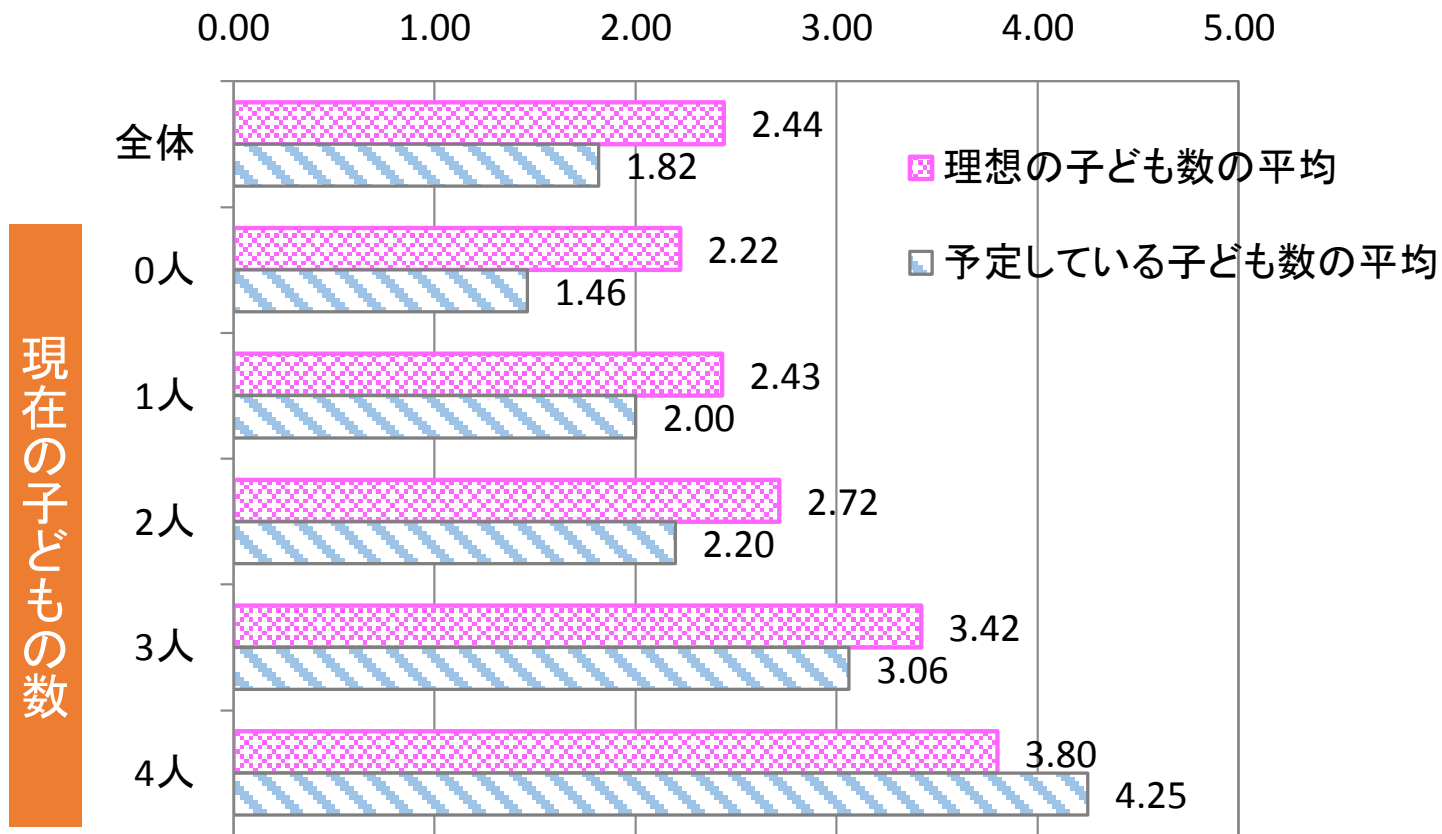
結婚生活の基盤となる経済の安定につながる共働きの支援や雇用面での支援が必要とされているとともに、出会いの場を提供するといった支援も必要とされている。

【あると良い自治体の婚活支援策】(複数回答)



※割合は回答者数ベース  
N=398

●理想の子ども数の平均は2.44人

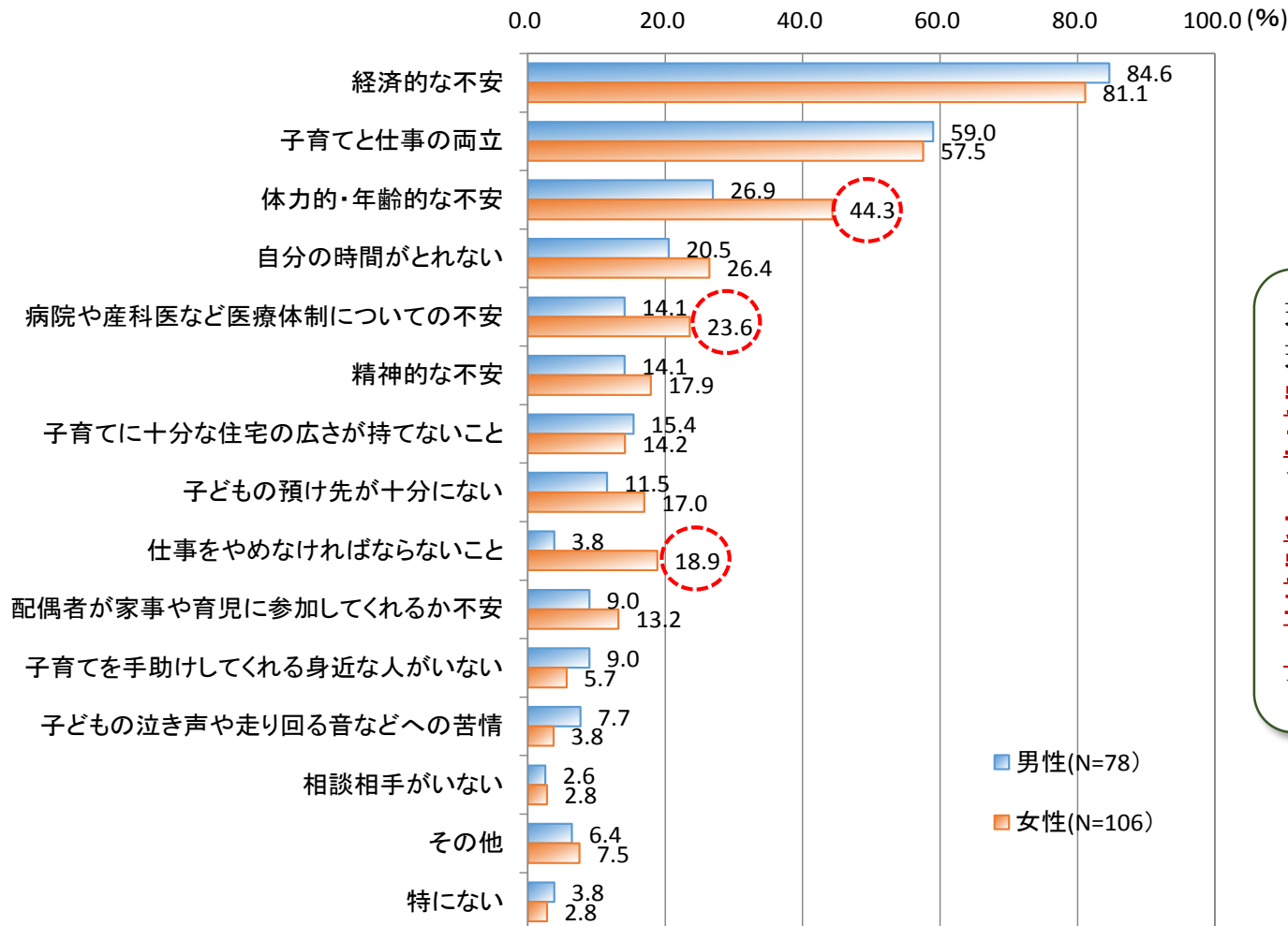


**理想の子ども数は平均2.44人**で、予定数より0.62人理想の方が多い。  
 現在の子どもの数別にみると、現在の子どもの数が多いほど、予定数、理想数ともに多くなる。

結婚における現状と課題 ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女]

●理想の子ども数を持ってない理由のトップは経済的な不安。  
女性には体力的・年齢的不安、医療体制、仕事も大きな壁

【理想の子ども数を持ってない理由(複数回答)】 ※予定と理想数が違う人のみ



理想の子ども数を持ってない理由として「**経済的な不安**」と「**子育てと仕事の両立**」が多くの人にあげられている。

**女性にとっては、体力的不安や医療体制への不安、仕事をやめなければならないことも大きな理由となっている。**

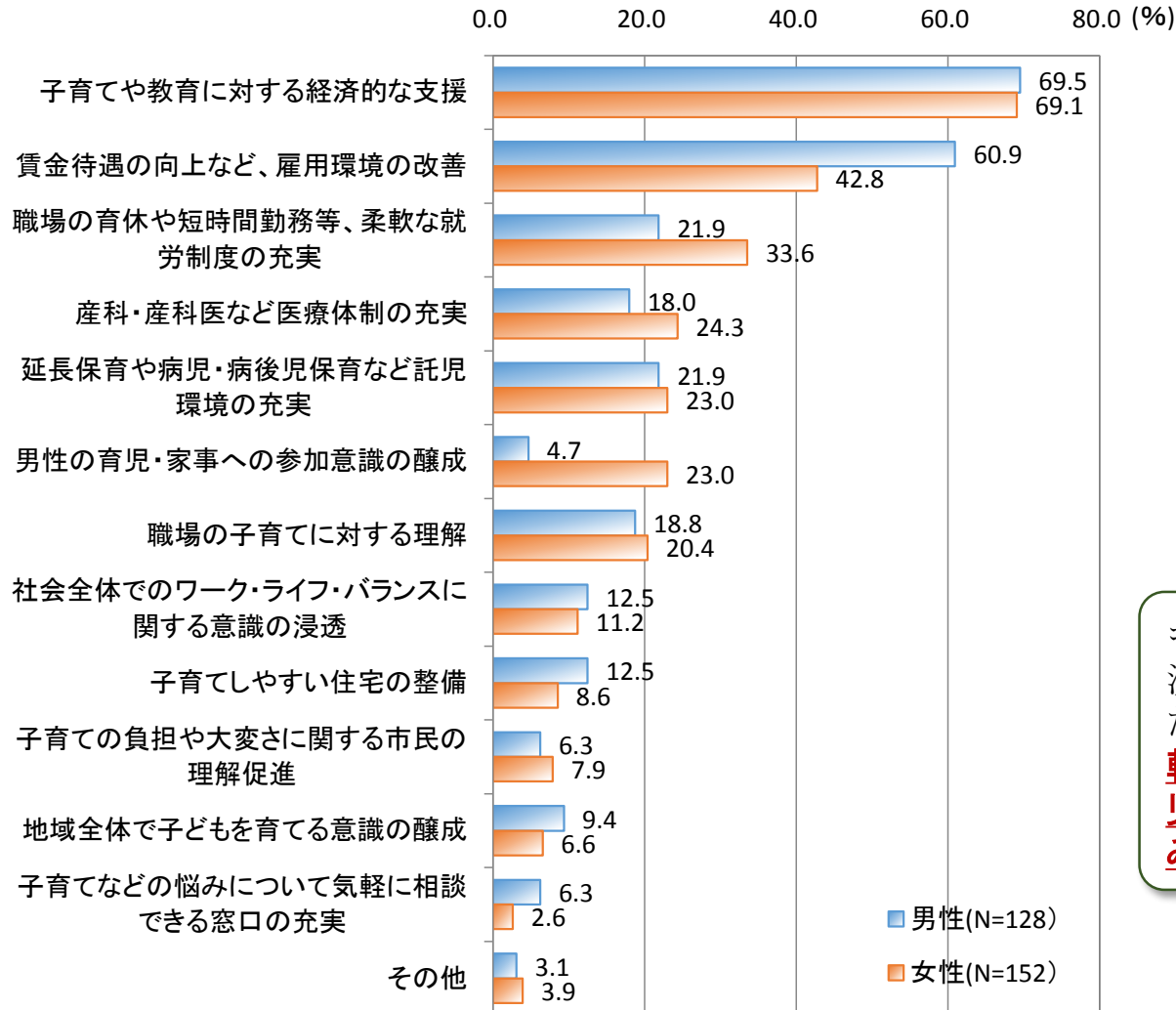


## 結婚における現状と課題 ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女]

## ●理想の子ども数を持てるようになるために必要とされているのは 経済的支援と雇用環境の改善

【理想の子ども数を持つために必要な取り組みや社会変化】

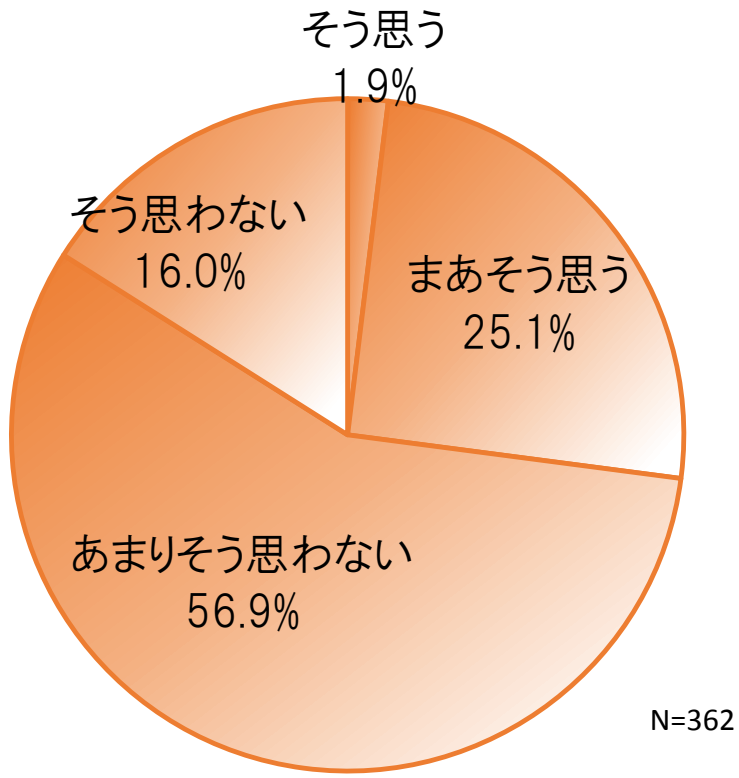
(3つまでの複数回答)



ギャップを埋めるための経済支援や雇用環境支援、また、**女性への支援として柔軟な就労制度や男性の育児・家事参加を促す取り組みが必要**という回答が多い。

●子どもを生き育てやすい社会とは思わない人が7割

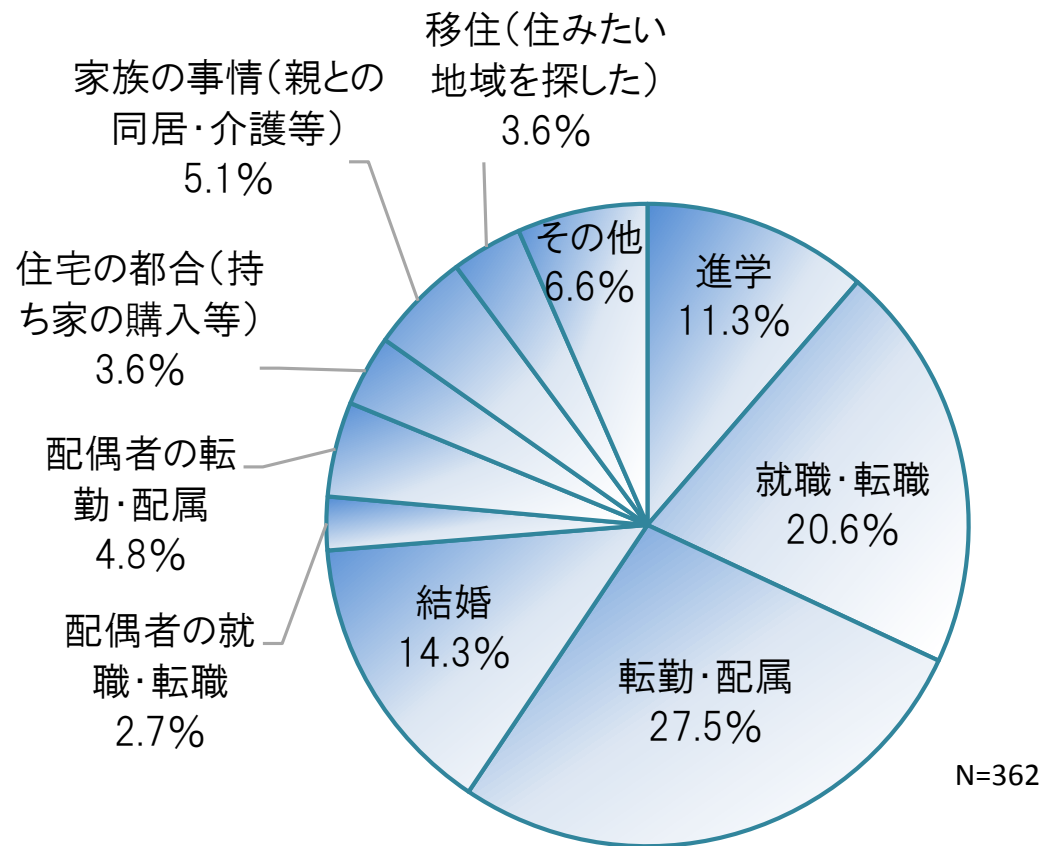
【現在の社会は子どもを生き育てやすい社会か】



転出の現状とUターン促進における課題 ~転出者アンケート [調査対象：2年以内に佐久市から転出した満18歳以上男女]

● 主な転出理由は転勤・配属、就職・転職、進学

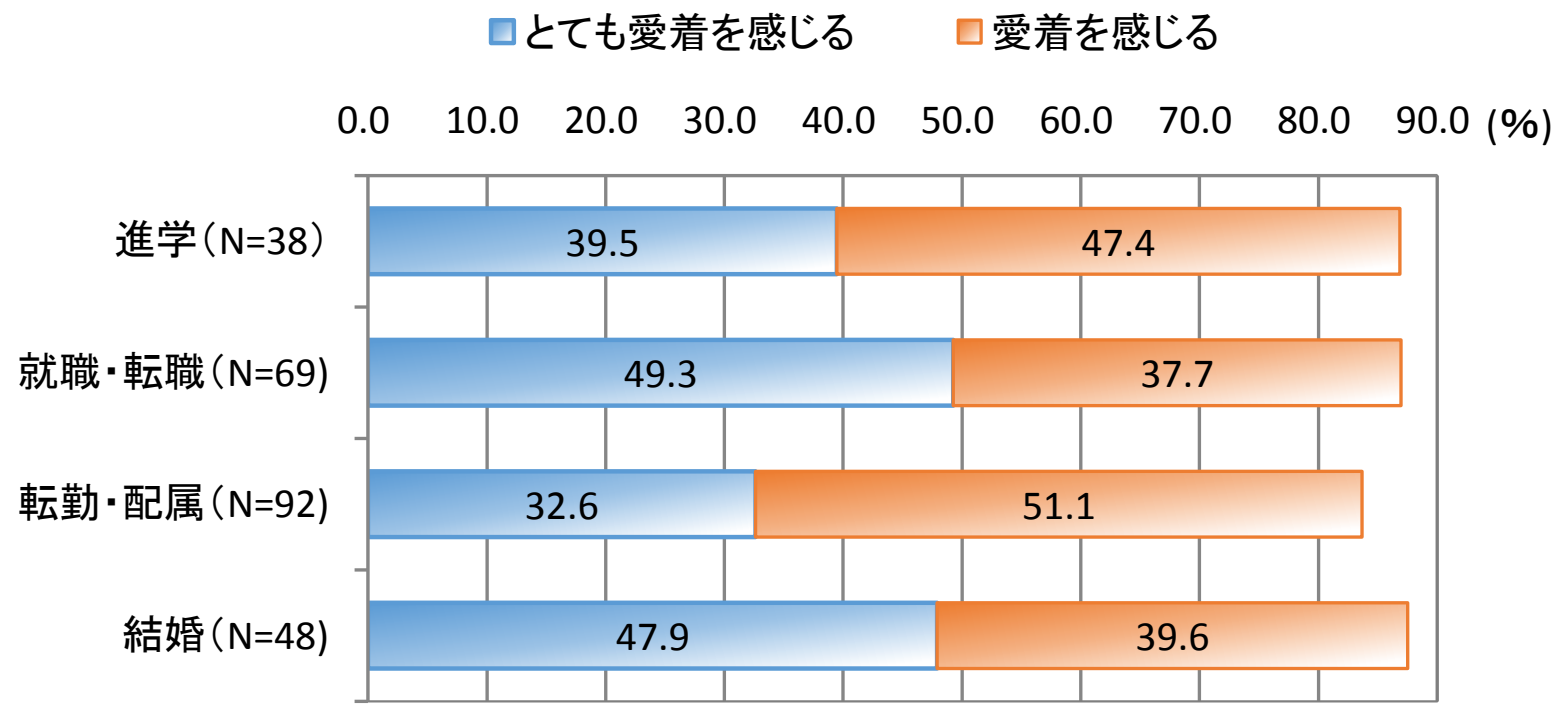
【転出した理由・キッカケ】



転出の現状とUターン促進における課題 ~転出者アンケート [調査対象：2年以内に佐久市から転出した満18歳以上男女]

●転出者は総じて佐久市への愛着度が高い

【佐久市への愛着度】



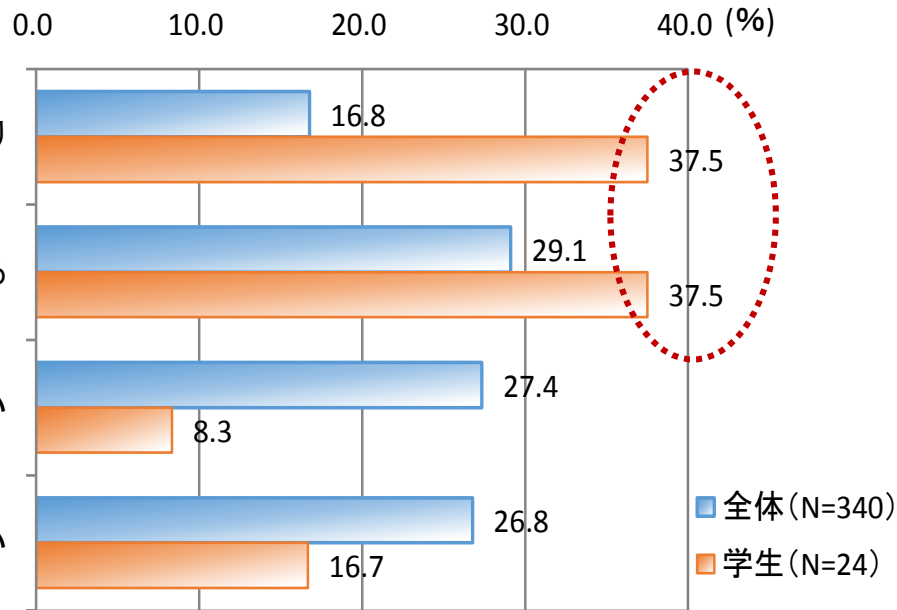
転出の現状とUターン促進における課題 ~転出者アンケート [調査対象：2年以内に佐久市から転出した満18歳以上男女]

進学により転出した学生

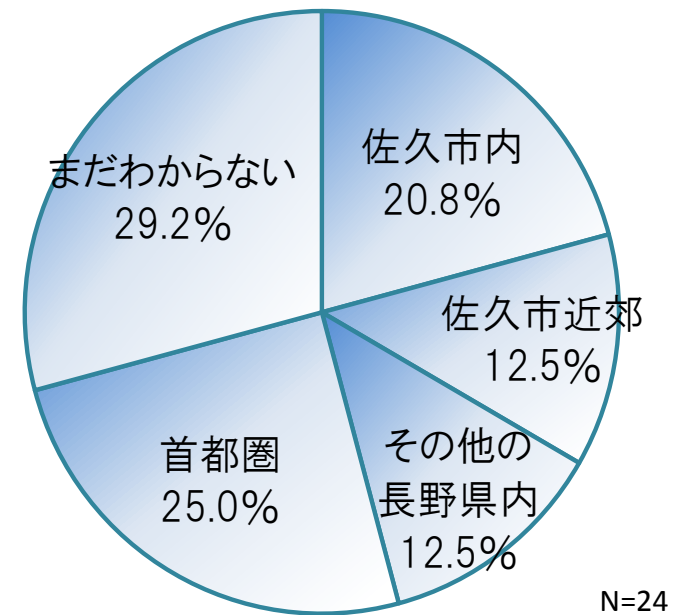
●進学で転出した学生のUターン意向は強い

●地元への就職希望は3割強

【Uターンの可能性】



【希望する就職場所】



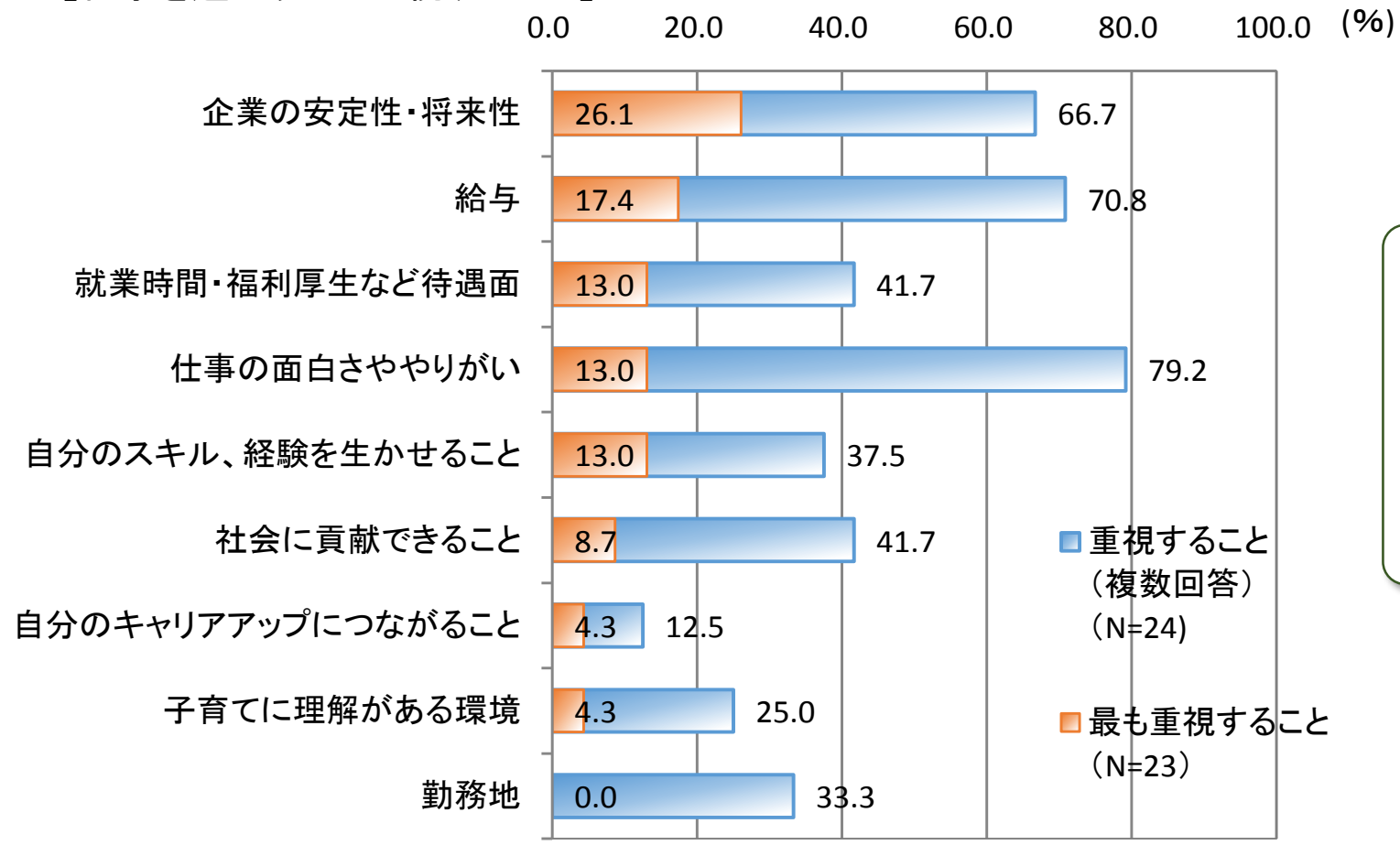
進学により佐久市から転出した学生のUターン意向は決して低くなく、**地元（佐久市+佐久市近郊）への就職希望者は33.3%**で、3人に1人の割合である。

転出の現状とUターン促進における課題 ~転出者アンケート [調査対象：2年以内に佐久市から転出した満18歳以上男女]

進学により転出した学生

●仕事を選ぶ際は面白さ・やりがい、給与、企業の安定性・将来性を重視

【仕事を選ぶうえで重視すること】

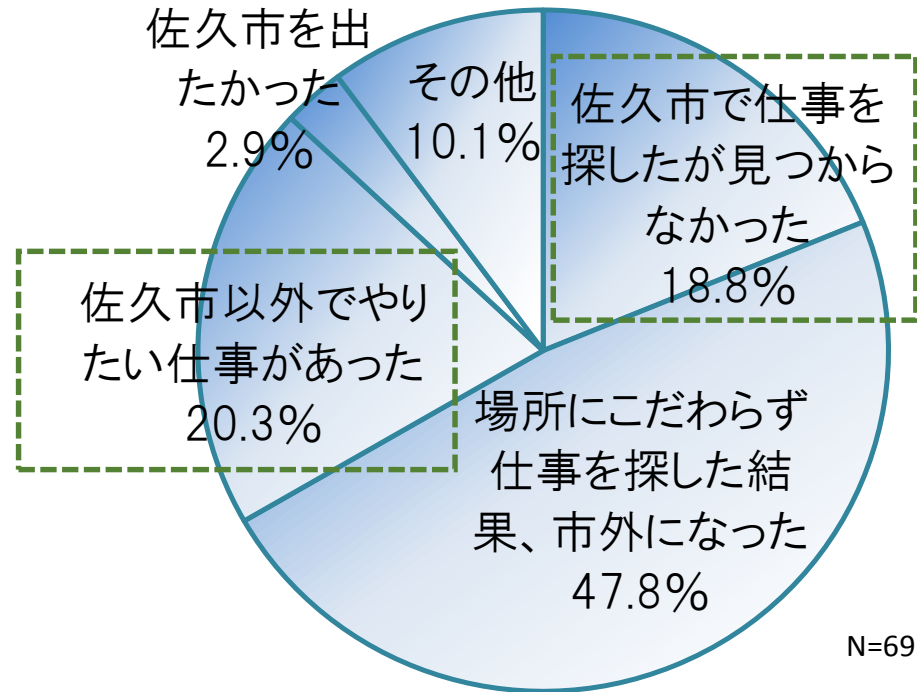


学生が仕事を選ぶ際に重視する仕事の面白さや、給与といった待遇面、安定性・将来性を備えた地元企業を増やし、Uターンを促していく必要がある。

就職・転職により転出した人

●場所にこだわらず仕事で市外を選択

【佐久市以外への就職・転職の経緯】



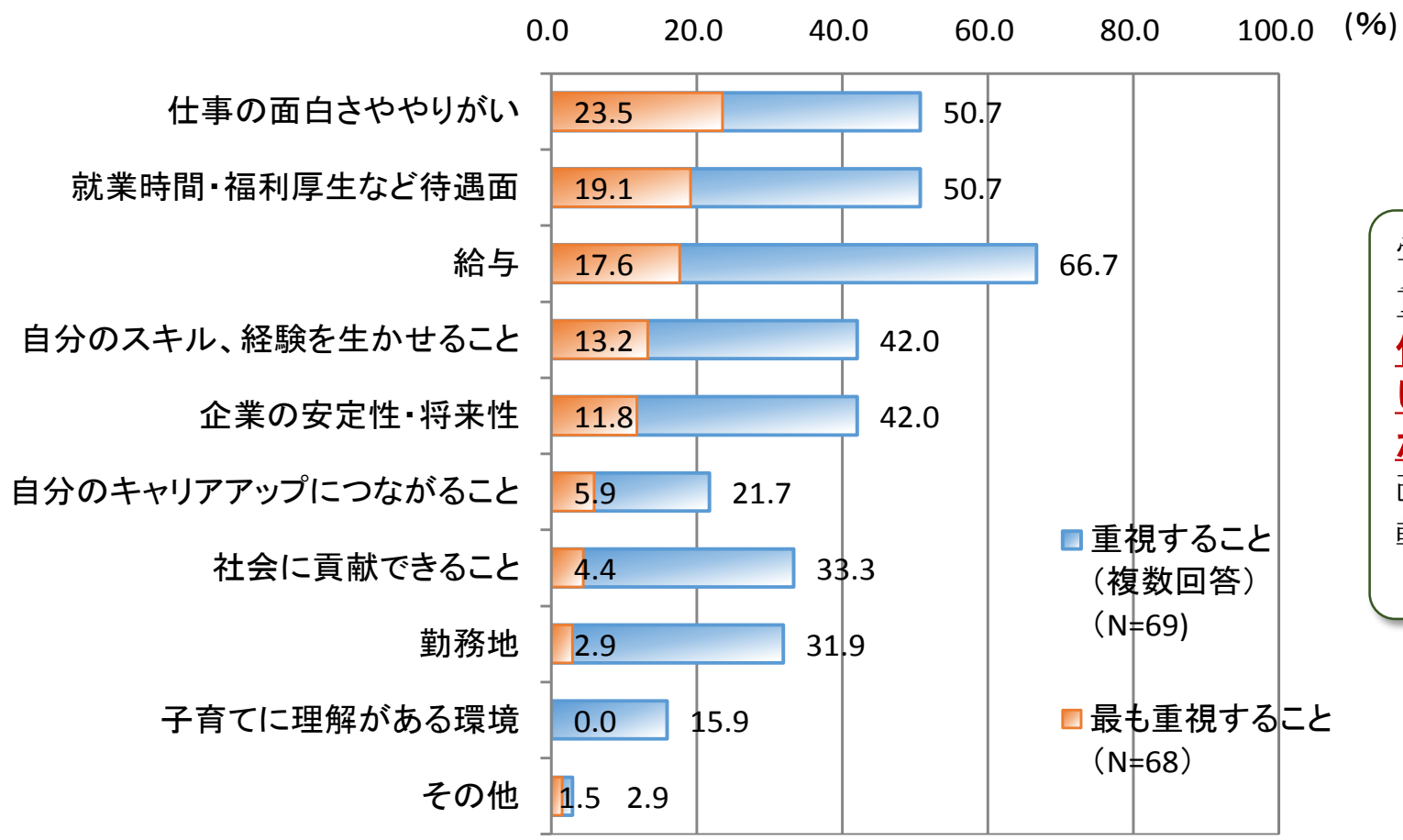
佐久市にやりたい仕事や給与面で満足できる仕事を見つけられれば、就職・転職で転出した人のうち、「佐久市で仕事を探したが見つからなかった」「佐久市以外でやりたい仕事があった」と回答した約4割が市内で就職できた可能性もある。

転出の現状とUターン促進における課題 ~転出者アンケート [調査対象：2年以内に佐久市から転出した満18歳以上男女]

就職・転職により転出した人

### ● やりがい、待遇、給与で仕事を選ぶ

【仕事を選ぶうえで重視すること】



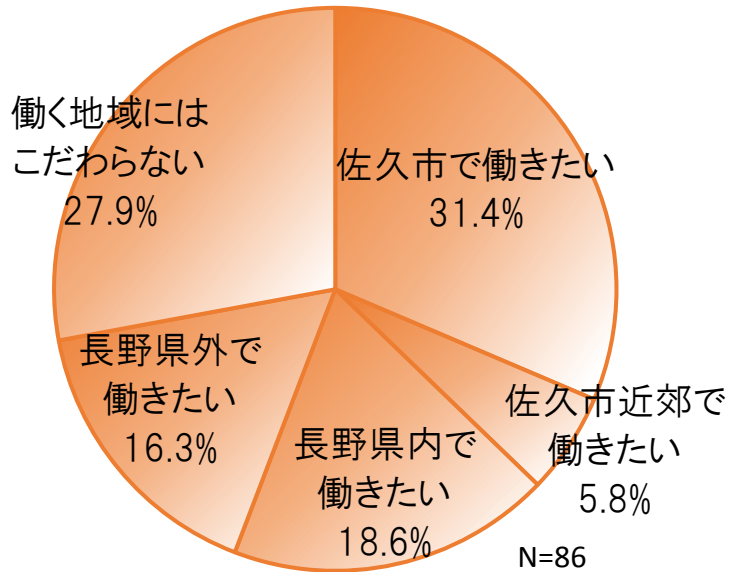
学生が仕事を選ぶ際に重視することと同様、**仕事の面白さややりがい、給与を重視する人が多い**。こうした点を改善できれば、就職・転職による転出を抑えられる可能性がある。



**在住学生の地元就職の現状と課題** ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女] / 高校、大学・専門学校アンケート【調査対象：佐久市内にある高校・大学・専門学校】

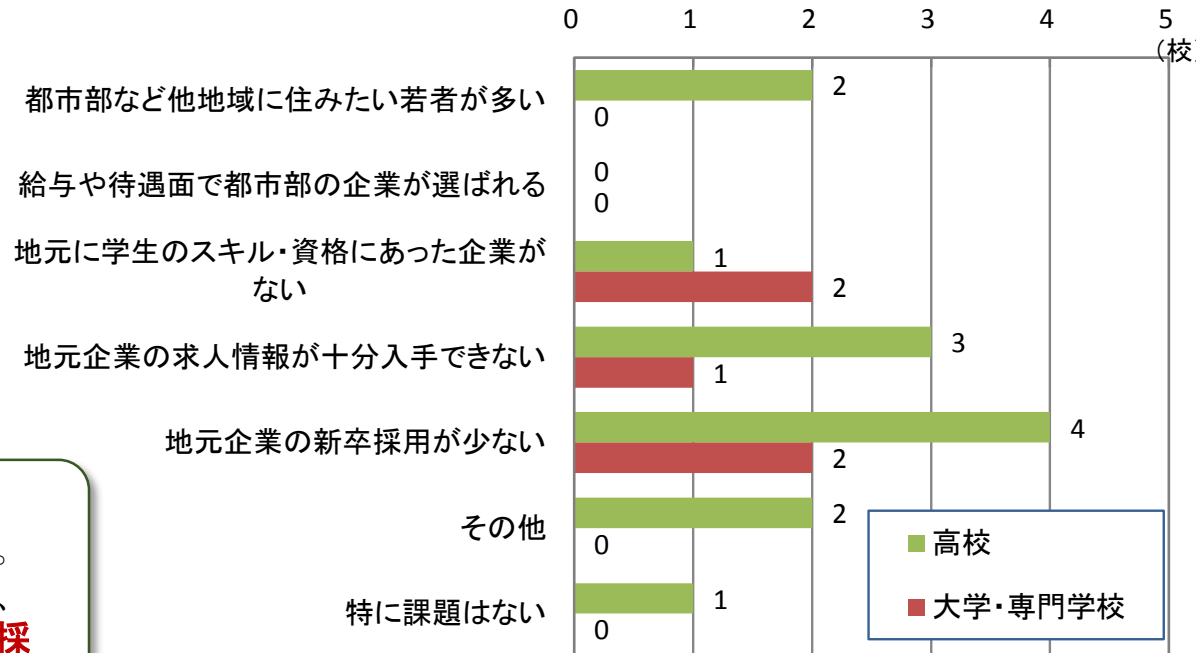
● **在住学生の約37%が地元就職を希望**

【将来の佐久市での就業意向】  
※佐久市内在住学生



● **地元企業の新卒採用が少ないことが課題**

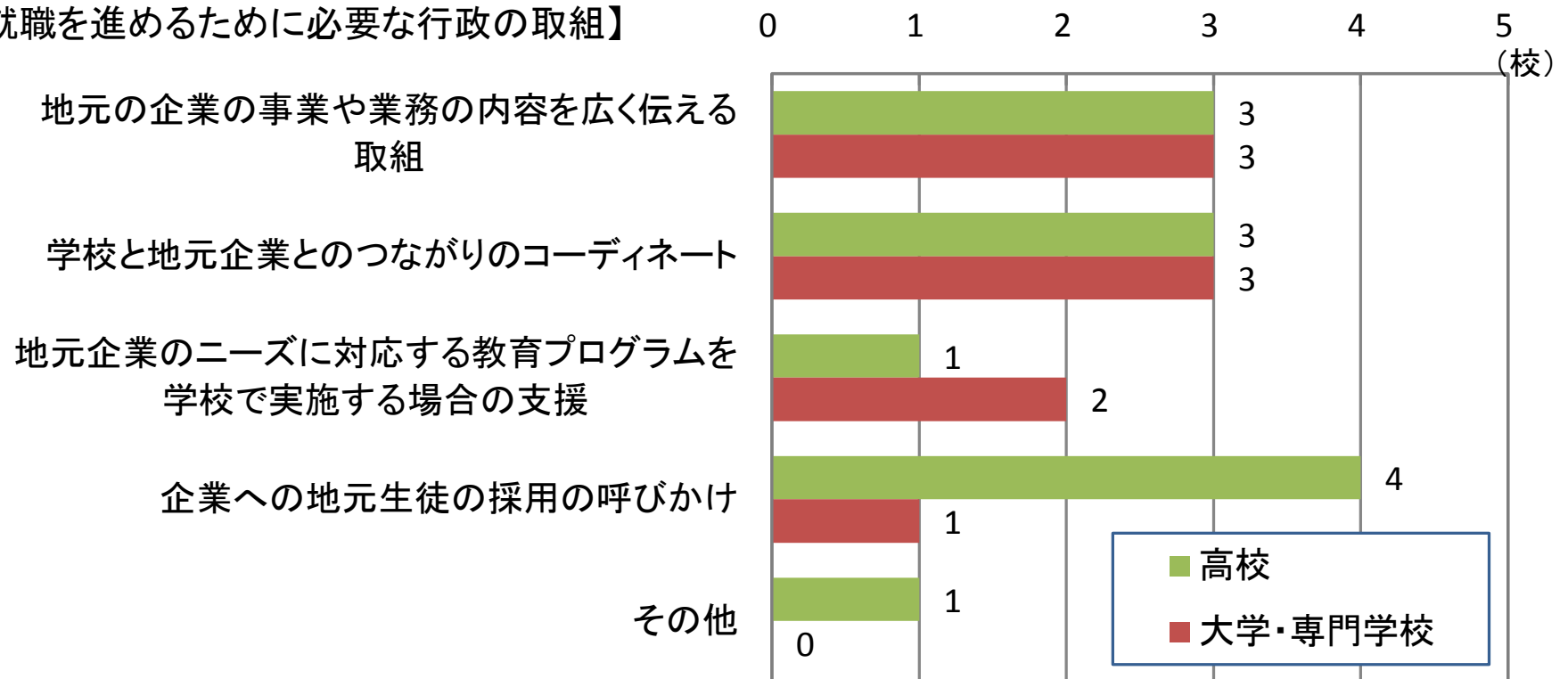
【若者の就職における課題】 ※佐久市内の高校、大学・専門学校



佐久市在住している高校生や大学生のうち、**地元（佐久市+佐久市近郊）への就職希望者は約37%**。しかし、市内の学校を対象としたアンケートでは、**若者の就職に関する課題として「地元企業の新卒採用が少ない」という意見が最も多くあげられている。**

●企業に対して、地元生徒・学生への採用を呼びかけることが求められている

【地元就職を進めるために必要な行政の取組】



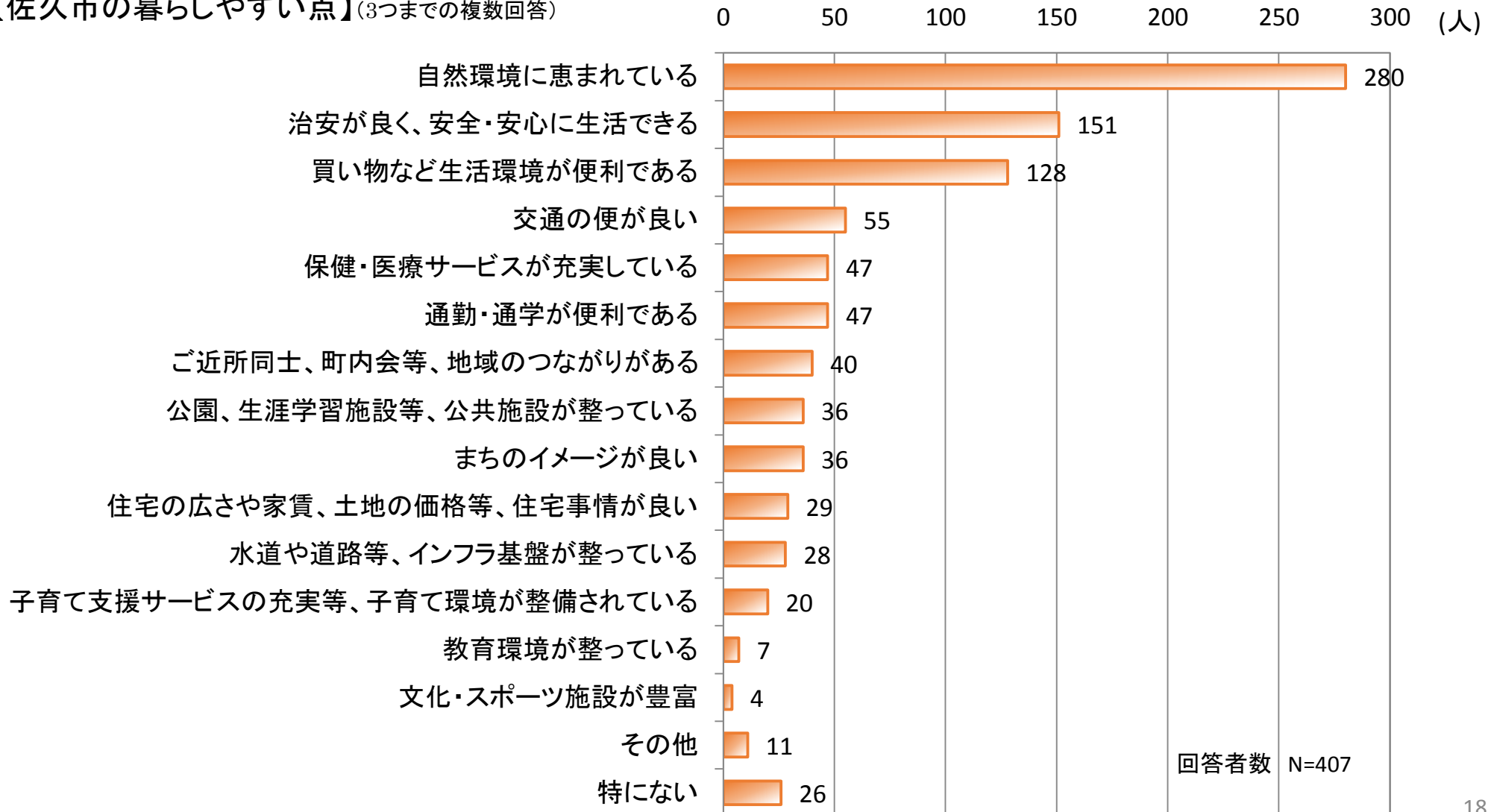
**必要な行政の取り組みとして、「企業への採用への呼びかけ」**が特に高校で多くあげられている。

# 選ばれるまちづくりに関わる調査結果

佐久市のまちとしての強みと弱み ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女]

## ●市民に評価されている佐久市の良さは、自然環境、治安、生活環境の便利さ

【佐久市の暮らしやすい点】(3つまでの複数回答)

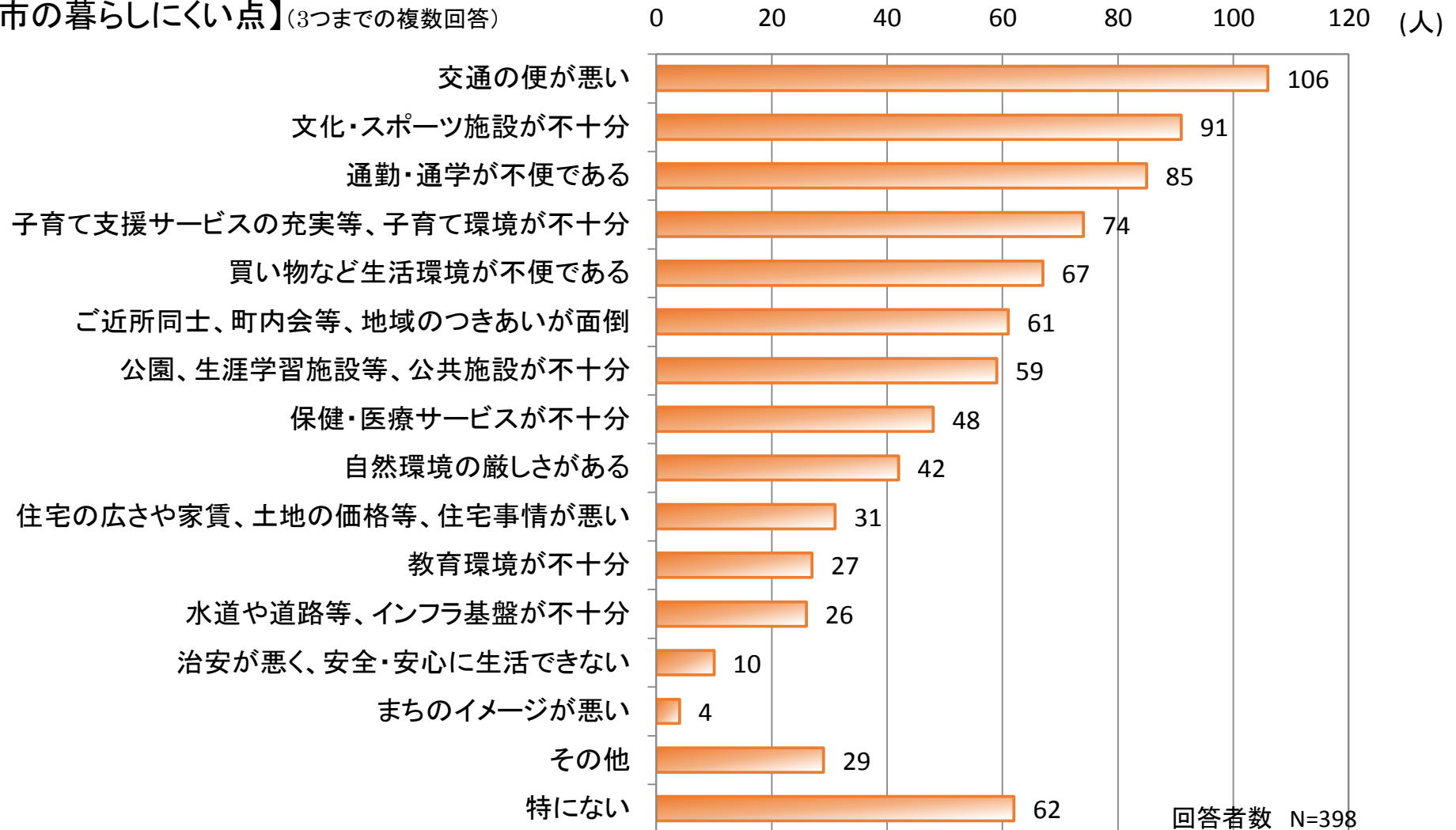


# 選ばれるまちづくりに関わる調査結果

佐久市のまちとしての強みと弱み ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女]

## ●佐久市の弱みは、交通の便の悪さ、文化・スポーツ施設の不十分さ

【佐久市の暮らしにくい点】(3つまでの複数回答)



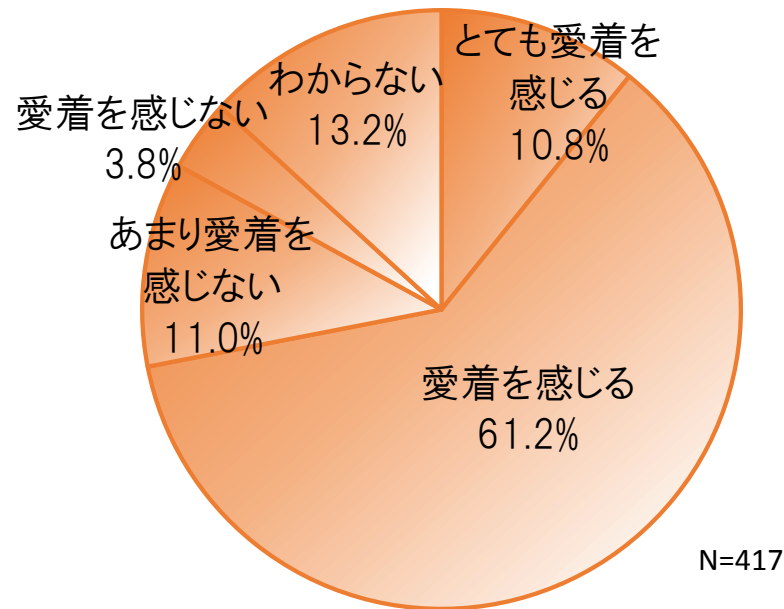
# 選ばれるまちづくりに関わる調査結果

佐久市のまちとしての強みと弱み ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女]

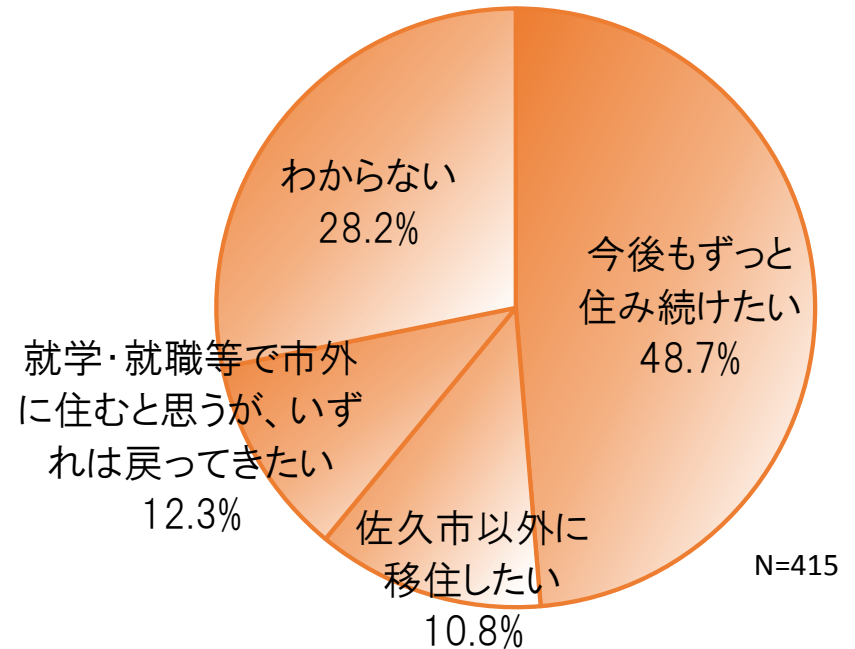
## ●愛着を感じる市民は7割

## ●定住意向が5割。1割は移住意向がある

【佐久市への愛着度】



【今後の定住・移住意向】

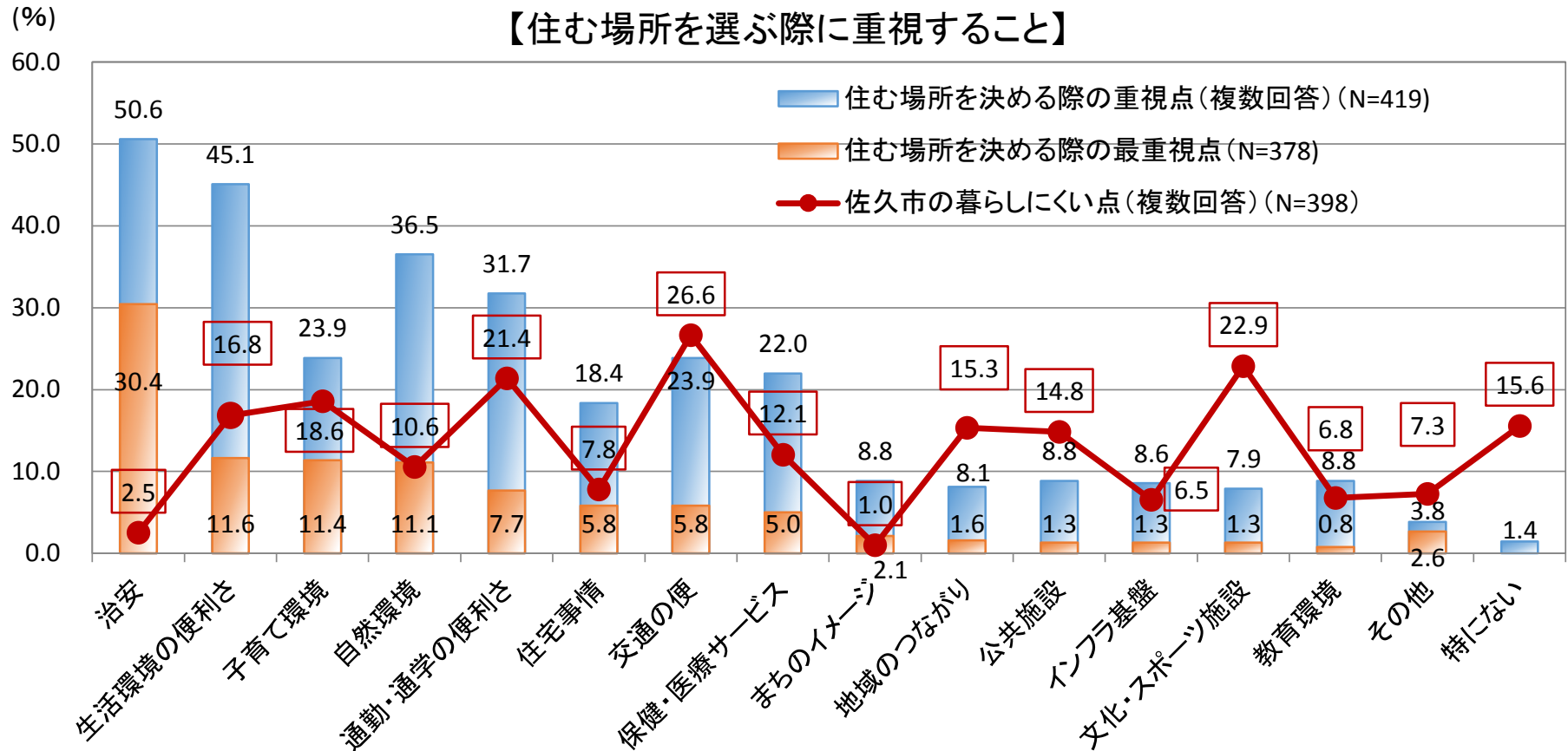


在住市民の愛着度は高く、また5割が定住意向を持っている。

# 選ばれるまちづくりに関わる調査結果

佐久市のまちとしての強みと弱み ～市民アンケート [調査対象：佐久市在住16～39歳の男女]

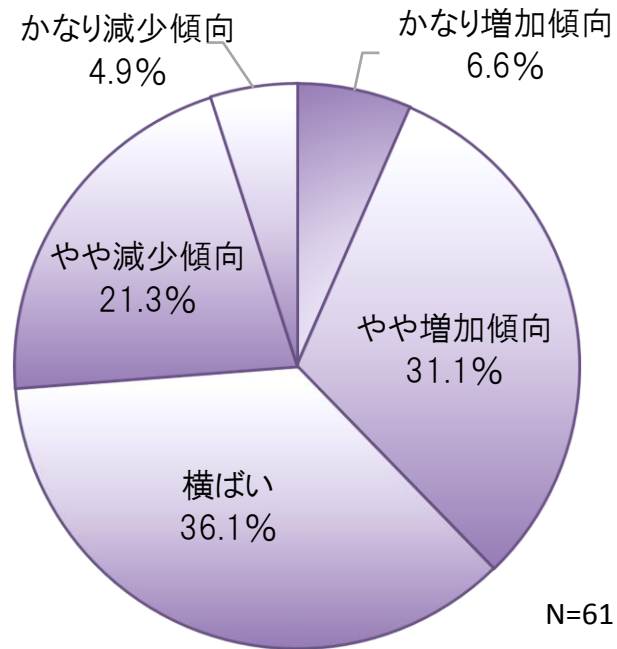
## ●住む場所を選ぶポイントは治安、生活環境の便利さ、自然環境



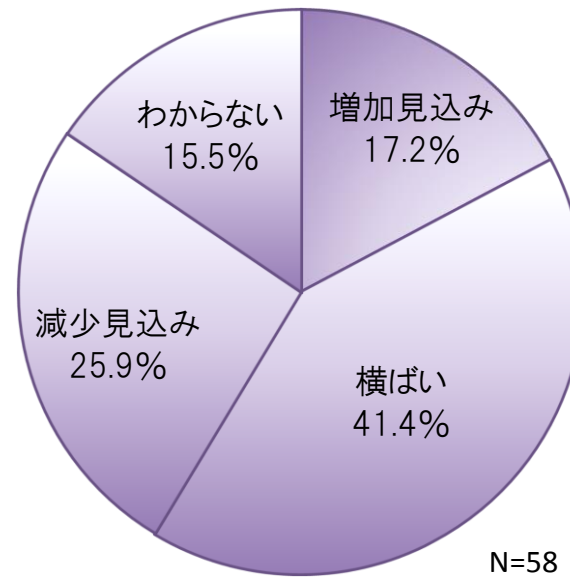
佐久市の良さとして市民に認められている **自然環境や治安の良さ、生活環境の便利さは、住む場所を選ぶ際の重視ポイントでも上位**にあげられており、これらの資源を守り、より価値を高めていくことで選ばれるまちとなれる可能性がある。一方、佐久市の暮らしにくい点としてあげられている「交通の便」や「通勤・通学の便利さ」を改善することで、定住を促せる可能性がある。

## ●売上は増加傾向が4割、賃金を引き上げた事業所は過半数

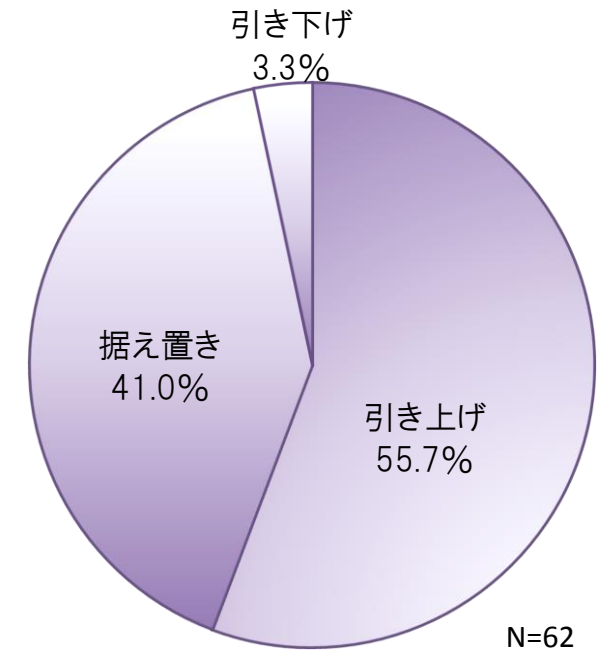
【直近3年間の売上動向】



【今後の売上見込】

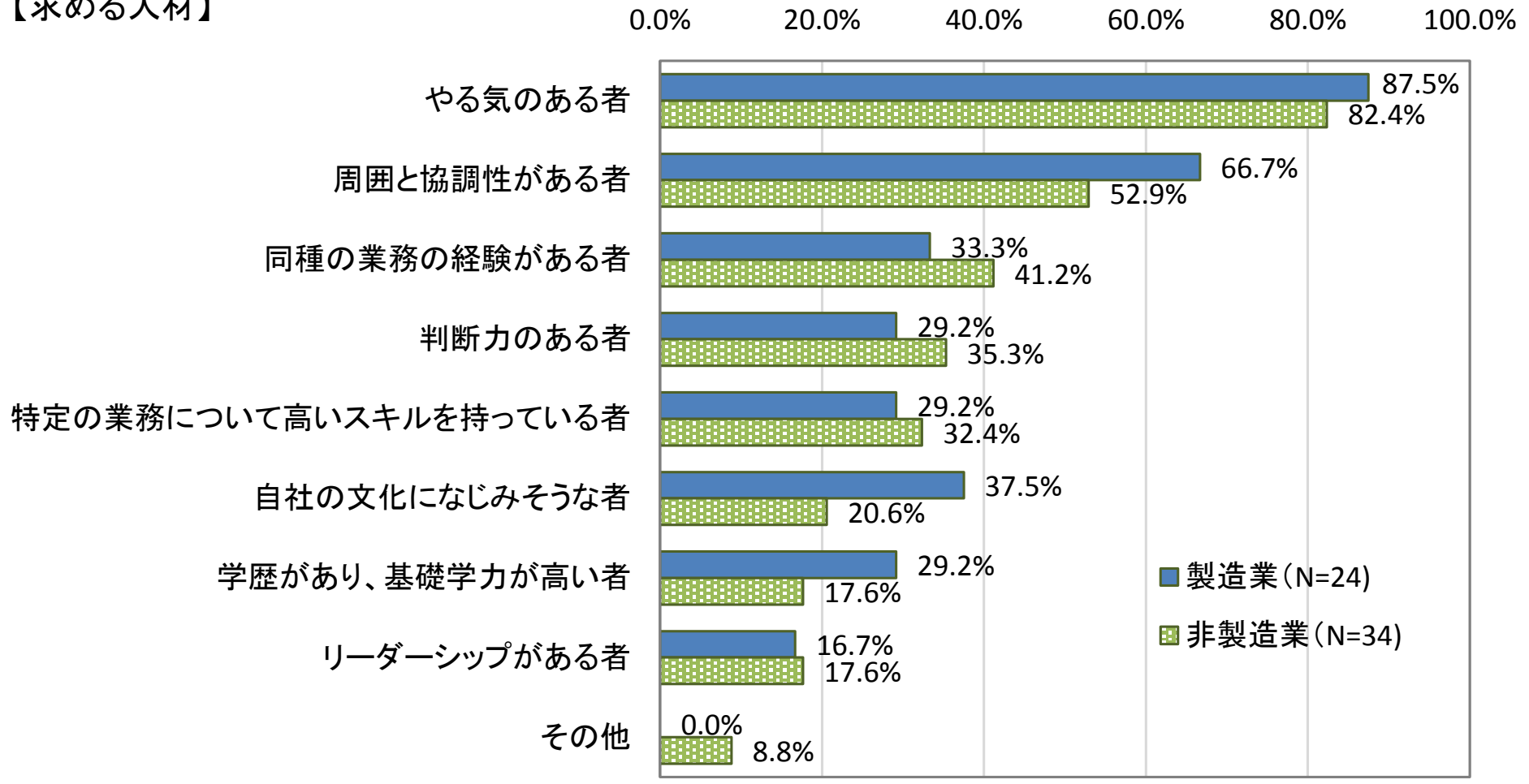


【過去1年間の賃金動向】



● 「やる気」「協調性」が業種を問わず重視されている

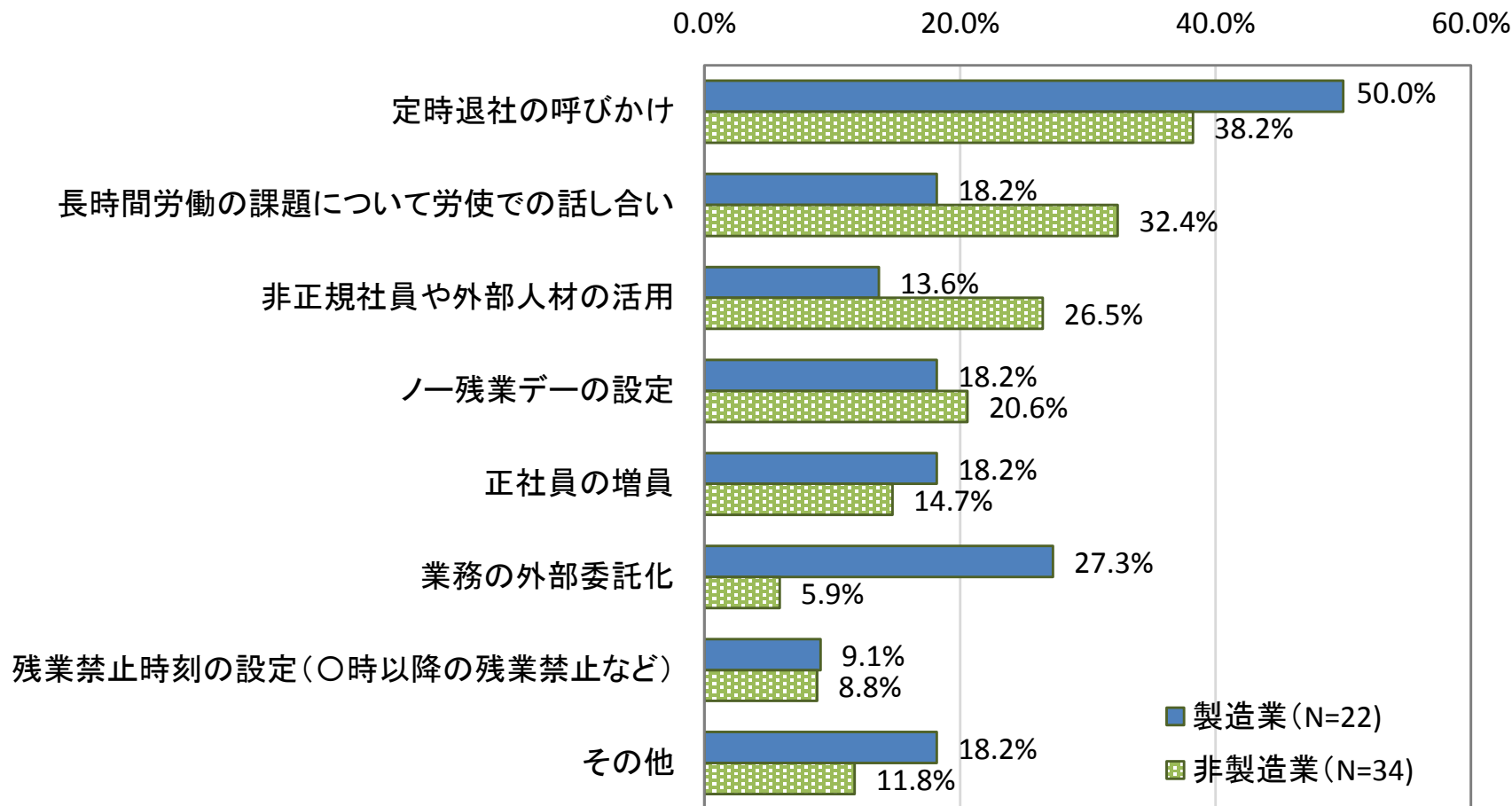
【求める人材】





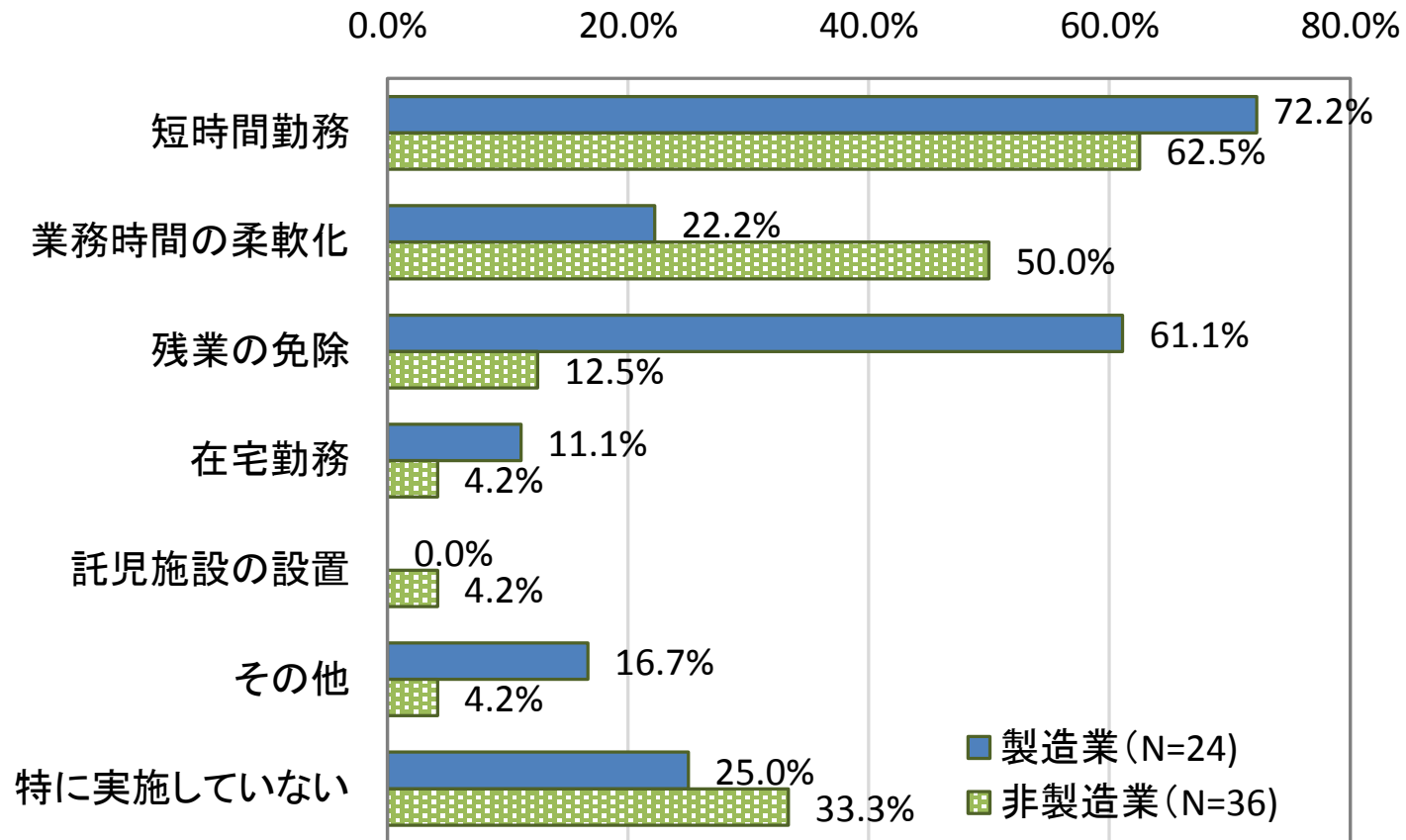
●ワーク・ライフ・バランスの取り組みは製造業と非製造業では異なる

【長時間労働是正の取り組み】



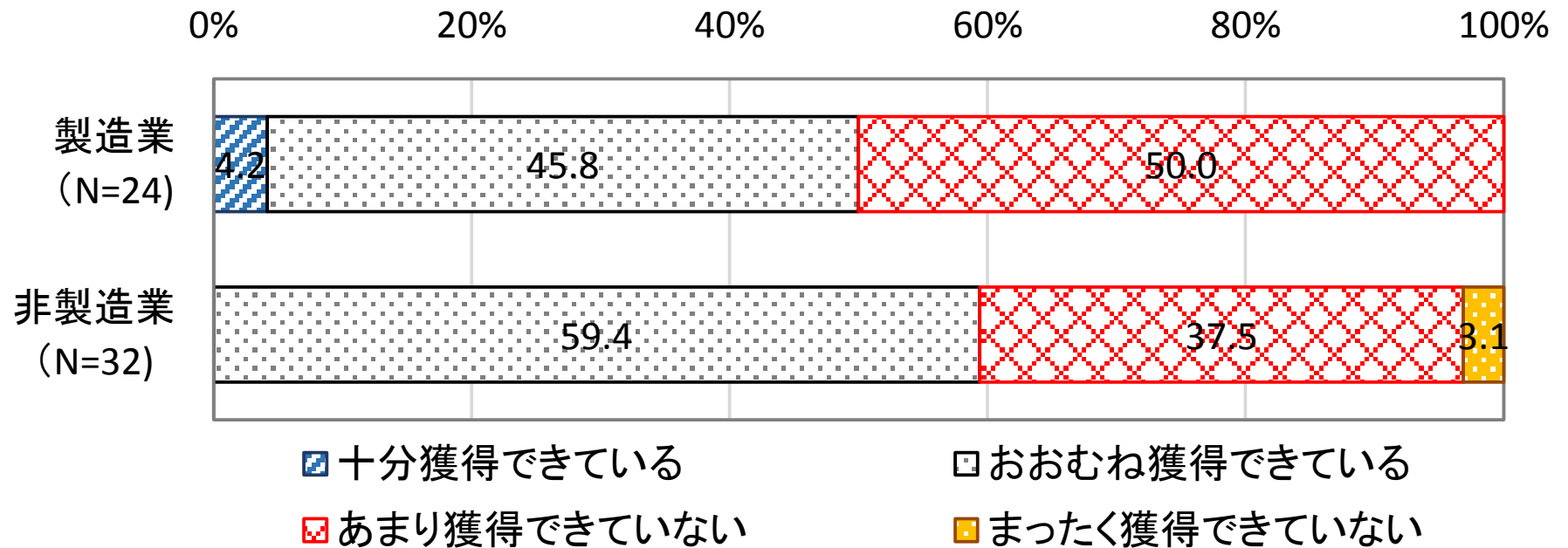
●仕事と子育ての両立支援として、短時間勤務を実施している事業所が多い

【仕事と子育ての両立への取り組み】



●製造業の5割、非製造業の4割が人材獲得に課題を抱えている

【求める人材の獲得状況】



## ●製造業では適性判断のしにくさ、非製造業では業界への若者の関心の薄さが課題

### 【正社員獲得の課題】

